

ヨーロッパでの震災展示 あなたは地震を体験したことがありますか？

延原尊美

ロンドン自然史博物館を 2015 年に訪問した折、地球科学の展示がリニューアルされており、その中に地震災害を扱っているコーナーがありました。日本ではその年、5月に口永良部島、6月に箱根山の噴火があり、そのニュースを滞在先の共同研究者に話したところ「イギリスでの一番最近の火山活動は数億年前だよ」と言われ、国の地学的背景の差を改めて実感させられました。地震に関しても、イギリスではマグニチュード 5.0 を超える大地震はめったに起きていないようです。そのような国の博物館が地震災害をどうあつかっているのか、興味をもって展示をのぞいてみました。

コーナーでは人口密集地で発生する地震の恐ろしさが伝わるよう、被災現場を再現する展示が組まれていました。そのなかに起震装置を使って地震のゆれを体験できる展示がありました。1995年の阪神・淡路大震災の神戸市内での商店の中を模した空間に 10~20 人が入って神妙な面持ちでゆれを待っています(写真 1)。ただし注意書きに「安全のため、床面の振動はかなり抑えています - 実際の震度を再現したものではありません」とあるように、(当然ですが)強い危険や恐怖を感じるような激しさはなく、体験を終えた人たちの表情もちよっと複雑でした。私自身は 1995 年の地震発生当時、そのゆれを神戸から 150km 以上離れた名古屋の下宿で体験したのですが、ただごとでないことを直感させる不気味さ、怖さをゆれの中に感じたことを今でも覚えています。展示の起震装置のゆれにはやはり違和感があり、変動帯に暮らしている自分の体に染みついている何かを再認識させられる展示でした。

その隣の映像展示では 2011 年の東日本大震災の津波の様子が放映されていました。ぼう然と目を見開いている人、腕を組んで見据える人とさまざまでしたが、展示をみるひとたちの真剣な眼差しと悼みの表情が心に残っています。夏季の休日とあって、自然科学の



写真1 神戸市内の商店の中を模した空間で地震のゆれを体験する。



写真2 地震体験の有無を問うリアルタイム展示

エンタテインメント性に期待して子連れで訪問している人も多いのですが、ここの展示空間だけは少し様子がちがいました。そして近くの展示コーナー出口には、「あなたは地震を体験したことかありますか」という問いかけに YES/NO で回答する押しボタンがあり、その結果がリアルタイムで表示されていました(写真 2)。体験した人、していない人がほぼ同数であったことが、一番印象に残っています。地震体験の際の身体感覚や畏れといった感情は、自然史への考え方や自然観にも大きな影響を及ぼしていると思います。地震や火山活動の活発な日本の自然史博物館が、世界に向けてどのようなメッセージを発信できるのか、考えさせられた 1 日でした。